



2018年7月23日

## 医薬品のスマート物流が中山で急速に拡大（仮訳）

### 広東九州通医薬集団へのインタビュー

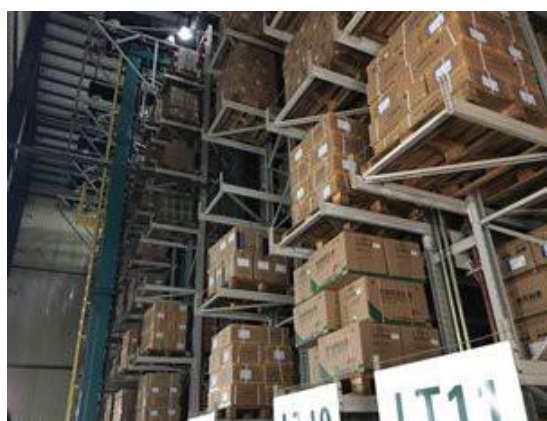
今秋に「港珠澳大橋」の開通が見込まれる中、香港・マカオと珠江の河口西岸の間の陸上交通路は大幅に強化される予定である。港珠澳大橋の開通が香港と珠江デルタ（PRD）地域西部の物流産業に及ぼす影響を評価するため、香港貿易発展局は2018年5月、広東省商務庁の支援を受けて珠江デルタ地域西部を訪問した。訪問の過程で、港珠澳大橋の完全開通により発生すると見込まれる協力・開発の機会について、現地の商務担当の公務員や物流セクターの代表者に意見を聞いた。

### バイオ製薬：新たな基幹産業

中山の従来産業には、家電、衣料、電子部品、照明および家具などがある。市の[第13次5カ年計画](#)では、新たな基幹産業として、電子情報、半導体照明およびバイオ製薬の発展を支援している。中山火炬（たいまつ）高技術（ハイテク）産業開発区の国家健康科技産業基地は医療産業に特化した国家レベルの工業団地で、拠点を置く企業は約200社に上る。この地区はバイオ製薬、医療機器および医療情報産業の実証拠点となっている。



中山の九州通医薬集団の物流センター



自動化されたスタッカーと昇降テーブル

中山の広東九州通医薬集団の物流センターは、広東省食品薬品监督管理局の承認を受けた 3PL（サード・パーティー・ロジスティクス）サービスプロバイダーである。同センターでは、中核的な事業活動として医薬品の卸売、物流・配送および電子商取引を手掛ける。独自の漢方薬、健康補助食品、抗生物質や化学薬品など、9,000 種類以上の製品を取り扱っている。

### 効率的な在庫管理

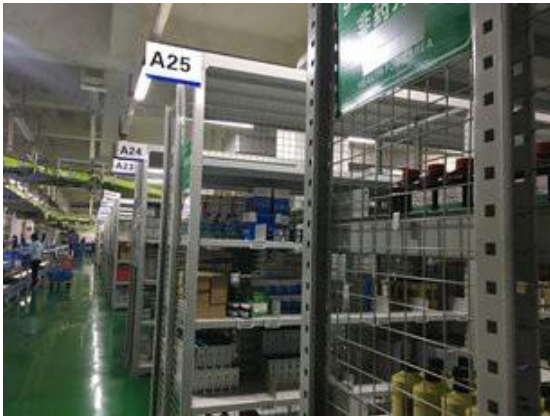
土地不足による制約に対応するため、中山の企業は、標準化を通じて在庫管理の効率化を図っている。医薬品はコンパクトで、包装も標準化されており、積み重ねる高さや幅、トレーの面積や保管単位についての統一的な基準が存在する。広東九州通の自動化された立体型倉庫では、高さ 1.2～1.5m の商品を運搬することが可能な 1.2m x 1m のトレーを使用している。各トレーは標準的な立方体を構成する。保管スペースが均一であることや、医薬品が他の商品に比べて軽いことにより、トレーに積んだ商品すべてを、自動化されたスタッカーと昇降テーブルを使用して昇降・保管することができる。

広東九州通の倉庫では、独自の物流情報システムを使用しつつ、倉庫管理システム（WMS）と倉庫コントロールシステムも活用して、1 時間当たりトレー 200 枚分の商品のチェックインと 180 枚分の商品のチェックアウトを同時に行うことが可能である。完全な自動化は、企業にとって人件費を劇的に削減できることを意味する。さらに、自動化された立体型倉庫では、縦のスペースを十分に活用し、従来型の倉庫の数倍の商品を保管することができる。

### スマートデータ管理

広東九州通の効率性の向上に寄与している別の要素として、集中型プラットフォームが挙げられる。このプラットフォームではリアルタイムで注文を受け付けている。配送用倉庫のスタッフは、無線の電子ラベル分類システムを使用して、注文された商品を選び出すことができる。さらに、商品はスタッフが最終照合システムを使用して手作業でチェックした後、箱に梱包される。集中型プラットフォームは在庫記録を即座に更新する。広東九州通は、ジャストインタイム（JIT） [1] 配送目標を達成するため、必要に応じてサプライヤーに発注を行っている。

広東九州通は、サプライヤー 4,500 社以上と取引を行っており、医療機関、ドラッグストアチェーン、医療サービスセンターなど約 1 万 1,000 件の顧客を抱える。同社の配送ネットワークは、中国南部の珠海、江門、仏山、韶関、東莞および惠州に及ぶ。同社では、半径 500km 以内の地域には 24 時間以内、珠江デルタ地域には 12 時間以内に商品を配送することを目標としている。スマートデータ管理は、商品の配送、数量および流れの追跡や、第三者倉庫サービスの効率性の改善に役立つ。



配送用倉庫



無線の電子ラベル分類システム

### 中山：珠江デルタ地域西部の物流ハブ

中山は、珠江河口の東岸と西岸や、広東・香港・澳門大湾区の各都市を接続する重要な物流ハブへと開発が進んでいる。今後数年で港珠澳大橋、虎門二橋、深圳-中山回廊 [2] の開通が予定される中、中山の物流産業は、都市・地域の物流サービスプロバイダーから、東岸と西岸をつなぐ物流ハブへと発展することが見込まれる。

現在、中山の地域配送ネットワークは、主に珠海、江門、ならびに広州と仏山の一部をカバーする一方、広東省西部にも広がっている。港珠澳大橋の開通後は、中山の物流サービスは香港・マカオに拡大する可能性がある。深圳-中山回廊が開通すれば、珠江の東岸と西岸の間の移動時間は大幅に削減され、大湾区の物流において中山が果たす役割は強まるとみられる。土地不足、人件費の上昇やその他の制約に直面する中で、中山の物流産業を強化するには、標準化、自動化、情報技術の活用を促進することが極めて重要である。



[1] JIT 配送とは、顧客が指定した時間に、適切な商品を、正確な数量だけ目的地に配送することを指す。

[2] 虎門二橋と深圳-中山回廊は、それぞれ 2019 年と 2024 年に開通が予定されている。